内宮から剣峠を越えて南伊勢へ向かう県道は、道幅が狭いため行き交う車がほとんどなく、聞こえるのは五十鈴川のせせらぎと野鳥の囀りだけ。植林されていない河畔には原生林が残り、初夏は新緑、晩秋は紅葉に彩られ、そこにいるだけで心が洗われるような別天地です。

町の喧騒を離れて、非日常のひとときを愉しまれてはいかがでしょうか。

洗心荘亭主・豊浦流十七代家元

上嶋宗規

洗心荘　占有貸切利用のご案内

間取り図

松風庵　松風庵外観　翫月亭　休憩室　洗心荘

アクセス

ご利用料金

施設占有利用	￥200,000(税別) / 日(9：00～17：00)、5時間未満 ￥160,000(税別)
お茶会実施加算料金	￥200,000(税別)(5人まで) ￥220,000(税別)(10人まで)　￥260,000(税別)(20人まで) ※松風庵のお点前でのご利用は1日5名までとさせて頂きます。
豊浦流十七代家元 指名加算料金	￥30,000(税別)

株式会社 伊勢おかげステイ＆リゾーツ
〒516-0028 三重県伊勢市中村町 607 番 28 号

神宮神域の森に佇む閑雅な迎賓の数寄屋

洗心荘

SENSHINSO

占有貸切のご案内

ISE OKAGE STAY & RESORTS INC.
株式会社 伊勢おかげステイ＆リゾーツ

五十鈴川上流の数寄屋で
非日常のひとときを



洗心荘「翫月亭」「松風庵」

皇祖神・天照大御神をお祀りし、年間数百万人の参拝者を迎える皇大神宮（内宮）。賑わいに包まれる神域への入り口・宇治橋から五十鈴川を遡ると、ご造営用材を育む神宮林の中に、かつて高麗広（こうらいびろ）と称された小さな集落があるのをご存知ですか。

内宮から南へ4km弱、緑陰の県道を進むと、神路山麓の五十鈴川左岸に、広葉樹に囲まれて一軒の数寄屋が佇んでいます。御神號の掛軸をはじめ、社寺や茶掛の軸装、書画屏風などの表装を行う「三重軸装」が、平成初期に保養所として建てた「洗心荘」です。のちに客殿、茶室を増築し、茶庭を設えて風流人をお迎えするようになりました。







まずはここでご一服。

当荘が建具や茶道具とともに受け継いだのが、豊浦（とゆら）流茶道です。武家や公家の流れを汲むといわれる書院の茶道で、使用する道具は千家流以前の物もあり、お茶や菓子は畳の上に置かず、天目台に載せてお出しします。

一服の後は一献を。伊勢の老舗料亭から運ばれる季節料理をご堪能ください。









入り口には瓦葺の四脚門が構え、ここから先、俗世間とは違う空間が始まることを告げます。門をくぐり、伸びやかな前庭を進んで館に入ると、左手に客殿「翫月亭（がんげつてい）」、背後に茶室「松風庵」が並びます。ともに、長年守られてきた伊賀の旧家から譲り受け、移築いたしました。

八畳と十畳の二間に、濡れ縁を回した翫月亭では、欄間や引き戸などの建具に施された、雅な螺鈿細工や錺（かざり）金物に目を引かれることでしょう。それらは奈良の一乗院邸で使われていたもので、同寺別当の配下であった亭主に払い下げられ、茶道具とともに代々受け継がれてきました。伊勢本街道に面した同寺は、都人が伊勢詣の休憩所として利用されたと聞きます。

翫月とは、月をもて遊ぶという意味。かつてはこの館で、三日月、上弦、望月、下弦と、折々に月が愛でられていたのでしょう。











いったん外に出て、庭園の露路を進むと、待合の先に三畳中板の松風庵があります。古くは大徳寺松末寺の龍王寺（伊賀）境内にあった茶室で、安政の大地震など天災に遭いながらも、残された部材を生かして大切に守られてきたそうです。

一同が会す客殿から、亭主との距離が近い侘びの草庵へ。趣の違いをお愉しみいただけることでしょう。ここで一席をどうぞ。



